2024年11月15日

各位

報告者：濵田・吉越・目黒(研修担当)

研修実施報告書

このたび、下記の通り研修を実施しましたのでご報告いたします。

記

研修の名称	支援のかなめ！アセスメントを学ぶ　第３弾
講師名	近藤直司氏（大正大学名誉教授）
実施場所	前橋市総合福祉会館　２Ｆ　社会適応訓練室
実施日時	２０２４年１０月２７日（日曜日） １０：００～１６：３０
受講者数・実施規模	会員；１７人　・　非会員；８人
実施の目的	県内の相談支援従事者等に向け研修会を行い相談支援体制の充実を図る
研修内容	１ 生物・心理・社会モデルのアセスメントに基づいたケアマネジメント（講義） 歴史的背景、法定研修に取り入れられた経緯、根拠と説得力のある アセスメントの実施効果等について学んだ ２ 『ニーズ整理票』を作成するときの留意事項（講義・演習） 講義内容を受けて事前に作成した課題の見直しと修正を行った ３ ５分レポートのポイントと演習（講義・演習） ポイントを踏まえた報告と振り返り・評価を行った ４ ケース検討会議の演習（講義・演習） グループの１事例を使用したケース検討会議の体験を行った ５ まとめ
研修所感	法定研修との連動を踏まえ、県内の相談支援専門員に広く呼びかけご参加いただきました。ニーズ整理票の作成に際し「情報」は３人称でより具体的に、「アセスメント」は１人称で抽象度は上がって良い、ということや、課題やプランに関係のない情報を削ることで本質に近づけることなどをわかりやすく教えていただきました。先生より、作成時は「支援課題」からスタートし「理解・解釈・推測」したことをBPSに基づいて整理していくほうが、私たちの普段の思考回路に近そうだという話もあり、根拠を言語化するプロセスがより明確になりました。 ケース検討会議の演習では、フォーマットを使いながらご本人を中心としたチームで課題を整理し方針を立て、役割分担まで行うことを意識して演習を行いました。相談支援専門員は会議で司会進行を行うことも多いですが、良い会議を行うためには司会者の采配が鍵となることを再確認しました。立場に関わらず、わからないことはわからないと発言することで早めの軌道修正ができることも学び、肩の力を抜いてやってみようという気持ちになりました。
備考	・研修後の受講者アンケート無し

以上